

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国12年4月)

～コアCPIは再びマイナスに転じる可能性も

経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コアCPIは3ヵ月連続のプラス

総務省が5月25日に公表した消費者物価指数によると、12年4月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI）は前年比0.2%（3月：同0.2%）と3ヵ月連続のプラスとなった。事前の市場予想（QUICK集計：0.1%、当社予想も0.1%）を上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.3%（3月：同▲0.5%）、総合は0.4%（3月：同0.5%）となった。

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
11年 1月	▲0.6	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲1.0
2月	▲0.5	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲0.9
3月	▲0.5	▲0.7	▲1.4	▲0.7	▲0.8	▲1.0
4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	0.2	0.2	▲0.5	▲0.2	▲0.2	▲0.6
9月	0.0	0.2	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.4
10月	▲0.2	▲0.1	▲1.0	▲0.5	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	▲0.9	▲0.5	▲1.2
12月	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.4	▲0.3	▲1.1
12年 1月	0.1	▲0.1	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲1.1
2月	0.3	0.1	▲0.6	▲0.2	▲0.3	▲1.1
3月	0.5	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.3	▲1.0
4月	0.4	0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0
5月	—	—	—	▲0.5	▲0.8	▲1.3

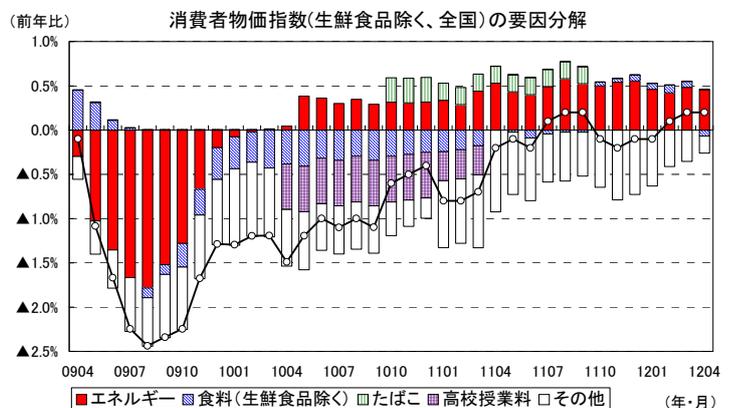
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コアCPIの内訳をみると、ガス代（3月：前年比4.4%→4月：同5.2%）の上昇幅は前月から拡大したが、電気代（3月：前年比6.9%→4月：同6.6%）、灯油（3月：前年比6.1%→4月：同3.9%）、ガソリン（3月：前年比4.9%→4月：同4.2%）の上昇幅が縮小したため、エネルギー価格の上昇率は3月の前年比5.7%から同5.3%へと縮小した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲0.3%（3月：同0.3%）と7ヵ月ぶりに低下した。これは、昨年4月が震災後の供給不足などにより上昇していた裏が出ているためで、指数の水準自体は前月と変わっていない。一方、新製品投入の影響

で2月に前年比0.5%とプラスに転じたテレビは3月が同2.3%、4月が同8.1%と上昇幅が拡大しているが、指数水準は低下している（2月：79.9→3月：76.9→4月：75.0）。

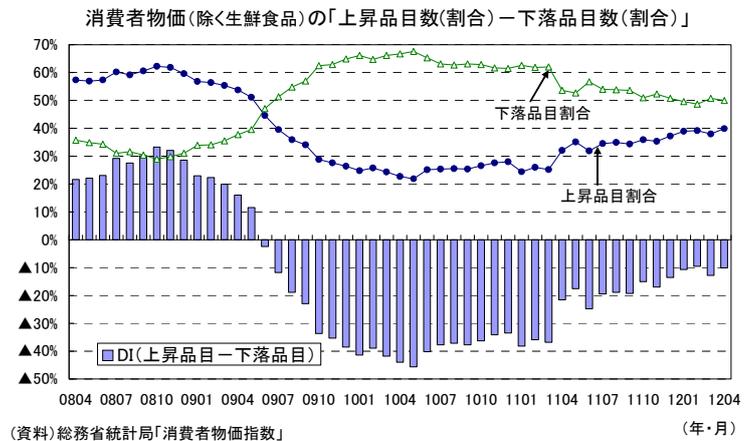
コアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.46%（3月は0.48%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.07%（3月は0.07%）、その他が▲0.19%（3月は▲0.35%）であった。



2. 物価上昇品目数が2ヵ月ぶりに増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、4 月の上昇品目数は 209 品目（3 月は 199 品目）、下落品目数は 262 品目（3 月は 266 品目）となり、上昇品目数が 2 ヵ月ぶりに増加した。

上昇品目数の割合は 39.9%（3 月は 38.0%）、下落品目数の割合は 50.0%（3 月は 50.8%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲10.1%（3 月は▲12.8%）となった。



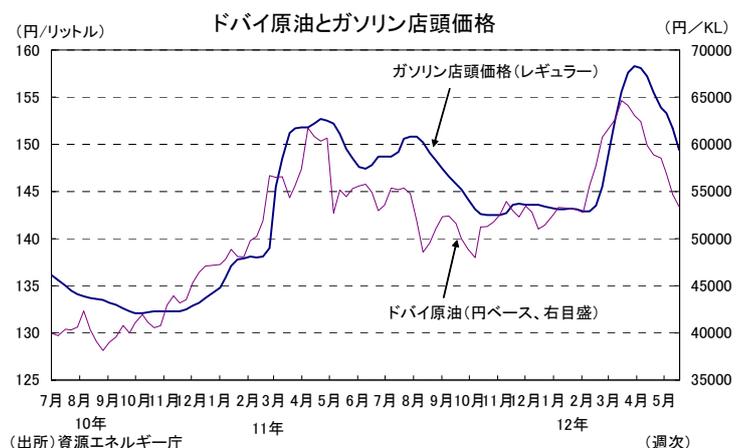
3. コア CPI は再びマイナスに転じる可能性も

12 年 5 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.8%（4 月：同▲0.5%）となり、下落率は前月から 0.3 ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.6%、当社予想も▲0.6%）を下回る結果であった。ガソリン価格が前年比 0.0%（4 月：同 3.6%）となるなどエネルギー価格が 4 月の前年比 7.7%から同 6.1%へと低下したこと、テレビの下落率が 4 月の前年比▲4.6%から同▲21.6%へと大きく拡大したことが、それぞれコア CPI を 0.1 ポイント程度押し下げた。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.34%（4 月は 0.42%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.15%（4 月は▲0.25%）、その他が▲0.99%（4 月は▲0.68%）であった。

ガソリン店頭価格は 4 月初旬には 160 円（レギュラー、全国平均）近くまで上昇したが、原油価格の下落を受けて 7 週連続で下落し、足もとでは 150 円割れとなっている。これまで物価を大きく押し上げてきたガソリン価格は夏場にかけて前年比マイナスとなる可能性が高くなってきた。火力発電の燃料費増加を受けて電気代が値上げされる可能性が高くなっていることもあり、エネルギー全体の上昇は維持されるものの、プラス幅は大きく縮小することが見込まれる。

コア CPI 上昇率は当面ゼロ近傍の推移が続くことが予想されるが、原油、為替動向次第では再びマイナスに転じる可能性もあるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。